



Title	ツングース諸語の地理的分布による目的形式とその用法の相違
Author(s)	白, 尚燁
Citation	北方言語研究, 13, 119-141
Issue Date	2023-03-20
Doc URL	http://hdl.handle.net/2115/89070
Type	bulletin (article)
File Information	07_Baek.pdf



[Instructions for use](#)

ツングース諸語の地理的分布による目的形式とその用法の相違¹

白 尚 燁
(室蘭工業大学)

キーワード：ツングース諸語、地理的分布、目的形式、意志表現、遠未来命令

1. はじめに

本稿は、ツングース諸語における目的節を構成する目的形式とその用法の違いについて地理的分布の観点から考察することを目的とする。結論として、ツングース諸語の北・東・南という地理的分布によって目的形式とその用法が異なっている可能性を提起する。

ツングース諸語は、下記の図1のように、ロシア領と中国領の広い範囲にわたって分布する同系の言語群を指す。Ikegami(1974)は、ツングース諸語の音韻対応、文法特徴、語彙に基づき、ツングース諸語を4つのグループに分類している(図2参照)。なお、本稿では満洲語の方言として見なされることもあるシベ語(Sb)も研究対象とする。

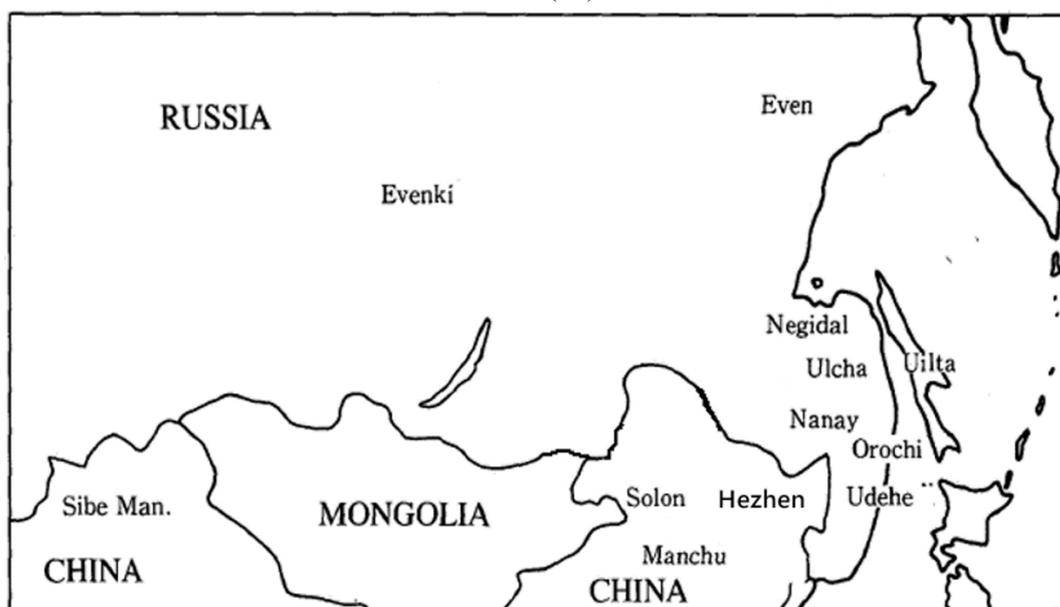


図1. ツングース諸語の分布 (Tsumagari 1997 に基づき、筆者改変)

- | |
|---|
| 第I群：エウエンキー語 (Ek), エウエン語 (E), ネギダール語 (N), ソロン語 (S) |
| 第II群：ウデヘ語 (U), オロチ語 (Oc), ヘジェン語 (Hz) |
| 第III群：ナーナイ語 (Nn), ウルチャ語 (Ol), ウイルタ語 (Ut) |
| 第IV群：満洲語 (M) |

図2. ツングース諸語の系統的分類 (Ikegami 1974, ヘジェン語の分類は風間 1996 参照)

¹ 本稿は、韓国アルタイ学会主催の Seoul International Altaistic Conference 2021 (2021.7.16-17, オンライン開催)での筆者による口頭発表 (Difference of purposive markers in Tungusic from the perspective of areal linguistics) に基づき、修正・加筆を行ったものである。なお、本研究は JSPS 科研費 (課題番号 21K12975, 21H04346) により、助成を受けたものである。

2. 先行研究と問題提起

第2章では、ツングース諸語における目的形式とその用法の相違に関する先行研究²を検討し、問題提起を行う。

2.1. Benzing (1955)

Benzing (1955: 143)は、下記の目的節の用例 a)を挙げながら、満洲語の副動詞語尾-mə の意味用法が、他のツングース諸語における対応形式と異なっていると述べている。

Manchu (IV)

・ Supine

a) ara-**mə** dosi-ka. 「(彼は)書くために入った」
 write- CVB.IMPF enter-PTCP.PST

(Benzing 1955: 143)

2.2. 風間 (1999)

表 1. ツングース諸語における指定格と目的副動詞及び遠未来命令形 (風間 1999: 76)

	指定格	不定格	目的副動詞	遠未来命令形
エウエンキー語 (I)	なし	-a/-ja	-daa-人称	-daa-wii (sg.), -daa-wər (pl.)
ソロン語 (I)	なし	-a/-ja	なし (?)	-daa-wi (sg.), -daa-sun (pl.)
ネギダル語 (I)	なし	-a/-ja	-daa-人称	-da-j (sg.), -da-wəj (pl.)
エウエン語 (I)	-ga	なし	-da/-ta-人称	-da-j (sg.), -daa-wur (pl.)
オロチ語 (II)	-laa/-jaa	なし	-la	なし
ウデヘ語 (II)	-na	なし	-laga	なし
ヘジェン語 (II?)	なし	なし	なし (?)	なし (?)
ナーナイ語クル・ウルミ方言 (I+III)	-na	なし	-da-人称	-gijəsi (sg.), -gijəsu (pl.)
ナーナイ語 (III)	-go/-gu	なし	-go/-pogo-人称	-xaari
ウルチャ語 (III)	-ju	なし	-bda-人称	-sari (sg.), -sartu (pl.)
ウイлта語 (III)	-ddoo	なし	-buddoo-人称	-ssaari/-ttaari
満洲語 (IV)	なし	ø	なし	なし
シベ語 (IV)	なし	なし	なし	なし

² 山越 (2020)は、池上二良氏の講義を受けた田村すゞ子氏の筆記ノートに基づき、池上氏による上記の4つの系統的分類に関する構想が1955年にすでにあったと推定している。この筆記ノートから、当時の池上氏が「～するために」という意味を示す目的形式におけるツングース諸語の相違 (<…するために>の意味の動詞語尾-laga, -laaの有無: 第II群ツングース諸語のみ有、<…するために>を意味する動詞語尾: 第II群・第III群ツングース諸語有)について注目していたことがわかる。

風間 (1999)は、ツングース諸語の指定格に焦点を当て、同形式が「見つける、得る、作る、探す、買う」などの新たな発見・獲得に関する特定の動詞に用いられ、常に所有接辞を伴い、「誰かのための何かを」という意味を示す形式であると定義した。また、指定格と不定対格に関する類似点と相違点を明らかにし、表 1 のように、ツングース諸語において両者が相補的に分布していることについて論じた。さらに、指定格と目的副動詞語尾に見られる形式とその用法の類似性を指摘しながら、ナーナイ語 (III)、ウイльта語 (III)の目的副動詞語尾に指定格の要素が含まれている可能性を示した。しかし、エウエンキー語 (I)、エウエン語 (I)、ネギダル語 (I)には、目的副動詞語尾-dAA-PERS が見られ、遠未来命令形としても用いられる点において、上記のツングース諸語と異なっていると述べている。

2. 3. Pakendorf (2013)

エウエン語の目的節は、方言差と関係なく、勧誘形 (1, 3 人称主語)又は遠未来命令形 (2 人称主語)としても働く目的副動詞語尾-dAA-PERS で表され得る。Pakendorf(2013)は、エウエン語の西方言において、例文 b)のように、目的副動詞-dAA-PERS + 発話動詞 goo-「言う」の結合による目的用法が見られると指摘した上で、サハ語にも類似した目的構文 c)(勧誘形と発話動詞の結合)が見られることから、サハ語から影響を受けた可能性を提起している。

Lamunxin Even (western dialect, Tungusic)

b) tartt ilan korzina-j miltərə-mkən-də-j
 then three basket.R-REF.SG become.full-CAUS-CVB.PURP-REF.SG
goo-mi gurginwči-wrə-n.
 say-CVB.COND work-HAB.N.FUT-3SG
 ‘...then he is working in order to fill his three baskets.’

(Pakendorf 2013: 268)

Sakha (Turkic)

c) mannik mah-inan baaj-ayin oxtu-ba-tin dien.
 this.ADVR wood-INS tie-PRS.2SG fall-NEG-HORT.SG say.CVB.PFV
 ‘... you tie a piece of wood like this so that s/he can’t fall.’

(Pakendorf 2013: 264)

2. 4. 問題提起

今までの先行研究では、満洲語の副動詞語尾-me による目的用法の特異性に関する簡略な記述と、第I群と第III群ツングース諸語における目的副動詞の形式とその用法の相違に指定格が関わっている可能性に関する論考があったが、そのような相違が見られるに理由については、明らかではない。また、エウエン語西方言の目的形式に関する先行研究で周辺言語であるサハ語と接触の可能性が指摘されているが、他のツングース諸語に関する該当研究はほとんどない。さらに、目的副動詞語尾が欠如している中国領ツングース諸語 (ソロン語、ヘジェン語、満洲語、シベ語)において、どのような目的形式が用いられるかについても明確にされていない。そのため、ツングース諸語全体における目的形式とその用法の相違に関する体系的な研究が必要であると考えられる。

3. ツングース諸語における目的形式とその用法³

本稿では、ツングース諸語の地理的分布と、ツングース諸語における目的形式とその用法の違いが関係しているという仮説を立てて検証する。そのため、第3章ではツングース諸語をその地理的分布により、3つのグループに分けて考察を行う。

- ・北ツングース諸語 (ロシア領北部に分布) : エウエンキー語 (文語) (I), エウエン語 (I), ネギダール語 (I)
- ・東ツングース諸語 (北ツングース諸語と南ツングース諸語の間とサハリン島に分布) : ウルチャ語 (III), ナーナイ語 (III), オロチ語 (II), ウデヘ語 (II), ウイルタ語 (III)
- ・南ツングース諸語 (中国領に分布)⁴ : ソロン語 (I), 満洲語 (文語) (IV), シベ語 (IV)

(1) 目的用法
(1a) : 移動目的 (移動動詞を伴う)
(English) He went to the library to study linguistics.
(1b) 目的用法 : 一般目的 (非移動動詞を伴う)
(English) He has studied French to get a job in France.
(2) 非目的用法
(2a) 意志
(English) He intends to get a job in France.
(2b) 命令 (2人称主語限定)
(English) Do it now.

図 3. 目的形式の用法に関する文法的パラメータ

本章では、各ツングース諸語の目的形式に注目し、筆者による図3の4つの用法 ((1) 目的用法 : (i) 移動目的、(ii) 一般目的と(2) 非目的用法 : (iii) 意志、(iv) 命令)が見られるか確認する。(1)は目的形式による通常の目的節を構成する用法を、(2)は目的形式が目的節形成以外の意志表現や命令法に用いられる用法を指す。なお、本稿の考察に当たり、以下のことを断っておく。

- ・本稿でいう目的形式は、①動詞に付属し、目的節を構成する副動詞語尾と②動詞の形動詞に後続する後置詞の2つの文法形式に限定する。そのため、「あなたのため」のように、名詞や代名詞にしか付加されない形式は、考察の対象としない。

³ 本稿における例文の表記、グロス分析、和訳は、筆者によるもので、原典と異なることがある。なお、母音調和による異形態が見られる形態素表記の際、その代表形をローマ字の大文字で示す。

⁴ 中国領のツングース諸語であるヘジェン語に関しては、目的形式による一般目的の用例 (但し、副動詞語尾-m(i)と移動動詞の組み合わせによる移動目的の用例は頻繁に確認できる)が非常に少ないため、本稿では具体的に扱わないこととした。但し、注12、注17、注20、3.3節でヘジェン語の目的形式について簡略に論じている。

・文の終止形として機能する動詞語幹に移動目的の接辞-nA (第 I, II, IV群), -ndA, -ŋdA (第 III群)「～しに行く」が総合的に用いられる用例は、すべてのツングース諸語に共通して見られることから、本研究では扱わないこととする。

3.1. 北ツングース諸語

表 2 は、ロシア領の北部に分布する北ツングース諸語 (エウンキー語 (文語)⁵, エウエン語、ネギダール語: すべて第I群ツングース諸語として分類)における目的形式とその用法を整理したものである。

表 2. 北ツングース諸語における目的形式とその用法
(Ek: Nedjalkov 1997, Boldyrev 2000, E: Novikova 1968, Pakendorf 2013, N: Kolesnikova and Konstantinova 1968, 風間 2002 に基づき、筆者作成)

	移動目的	一般目的	意志	命令
エウンキー語	-mi			
Ek (I)	-dAA-PERS	-dAA-PERS	-dAA-REF+nəkə- 「する」	-dAA-REF (遠未来)
エウエン語	-ml			
E (I)	-dA-PERS	-dA-PERS	-dA-REF+nək- 「する」	-dA-REF (遠未来)
ネギダール語	-ml			
N (I)	-dAA-PERS	-dAA-PERS	-dAA-REF+nixə- 「する」	-dAA-REF (遠未来)

すべての北ツングース諸語には、例文 (1-1, 2-1, 3-1)でも確認できるように、副動詞語尾 *-ml⁶と移動動詞の分析的結合により、移動目的を構成する⁷。

また、北ツングース諸語には、目的副動詞語尾-dAA-PERSが見られ、移動目的 (1-2, 2-2, 3-2)と一般目的 (1-3, 2-3, 3-3)を形成する。なお、Pakendorf (2013)が述べているように、東方言と違って、エウエン語 (西方言)には目的副動詞語尾-dA-PERS + goo- 「言う」の分析的構文による目的用法 (上記の 2.3.参照)も存在する⁸。

さらに、北ツングース諸語の目的副動詞語尾が「する」という動詞と分析的に結合し、意志 (1-4, 2-4, 3-4)を示す点においても、共通性が見られる。

最後に、これらのツングース諸語における目的副動詞語尾は、表 3 のように、遠未来命令の標識 (再帰人称接辞が付加: 1-5, 2-5, 3-5)として機能する点においても、同様である。

⁵ エウンキー語にも、後置詞 jarin (taŋ-in jarin dukuwun read-NMLZ for book 「読むための本」 Nedjalkov 1997: 162)が見られるが、目的節を構成することはないと考えられるため、本稿では排除した。

⁶ 本稿における *-ml の定義とグロス分析は、各言語における副動詞語尾の分類にしたがう。そのため、同起源の形式であっても、言語によってその定義とグロス分析が異なることがある。

⁷ この際、副動詞形式には接辞-nA 「～しに行く」を伴うことが一般的である。

⁸ しかし、同形式は、本稿における目的形式の定義 (①動詞に付き、目的節を構成する副動詞語尾と②動詞の形動詞に後続し、目的節を構成する後置詞)には含まれないため、表 2 には反映しないこととした。また、エウエン語のみに観察される、形動詞未来形起源の目的形式-jlŋAw(A)-PERS に関しては、他のツングース諸語に対応する形式が見られないため、本研究では扱わないこととした。

表 3. 北ツングース諸語の命令法 (2 人称のみ) (Ek: Nedjalkov 1997, E: Novikova 1968, N: Kolesnikova and Konstantinova 1968, 風間 2002 に基づき、筆者作成)

	近未来		遠未来	
	2SG	2PL	2SG	2PL
エウエンキー語 Ek (I)	-kAl	-kAAlu	-dAA-wi	-dAA-wEr
エウエン語 E (I)	-lI~nI	-(lI)lR A	-dA-j	-dAA-wUr
ネギダール語 N (I)	-xAl~-kAl	-xA-sun~-xAn	-dA-j	-dA-wAj

Evenki (文語) (I) ⁹

(a) 移動目的 — 条件副動詞語尾 -mi + 移動動詞

1-1) ətyrkən suru-sin-ə-n sulaki-wa gələktə-mi.
old.man go.away-SMLF-N.FUT-3SG fox-ACC look.for-CVB.COND
「老人は、狐を探しに行った」

(Nedjalkov 1997: 102)

(a) 移動目的 — 目的副動詞語尾 -dAA-PERS + 移動動詞

1-2) bi nuŋan-dula-n tuksa-čə-w dukuwun-ma-s buu-dəə-wi.
1SG.NOM 3SG-LOC-3SG run-PTCP.PST-1SG letter-ACC-2SG give-CVB.PURP-REF.SG
「私は、あなたの手紙を渡すため、彼のところへ走った」

(Nedjalkov 1997: 52)

(b) 一般目的 — 目的副動詞語尾 -dAA-PERS + 非移動動詞

1-3) jəw-dəə-n iri-čə-n.
eat-CVB.PURP-3SG cook-PTCP.PST-3SG
「彼女は、彼が食べるよう、料理した」

(Nedjalkov 1997: 52)

(c) 意志 — 目的副動詞語尾 -dAA-REF + nekə- 「する」

1-4) ədu xokto-wo ol-da-wər nekə-də-rə-w.
this.DAT road-ACC make-CVB.PURP-REF.PL do-IMPF-N.FUT-1PL.EXC
「私たちは (ここに) 道を作ろうとしている」

(Boldyrev 2000: 386)

(d) 命令 (遠未来) — 目的副動詞語尾 -dAA-REF

1-5) bira-wa dag-mi guluwun-ma ila-daa-wi.
river-ACC cross-CVB.COND fire-ACC burn-CVB.PURP-REF.SG
「川を渡ったら、火をつくりなさい」

(Nedjalkov 1997: 262)

⁹ エウエンキー語、エウエン語などのロシア領ツングース諸語には、例文 1-1, 1-2 のように、述語が文末ではなく、文中に現れる現象が見られる。これは、ロシア語からの影響である可能性が考えられる。

Even (I)

(a) 移動目的 — 条件副動詞語尾 -mI + 移動動詞

2-1) tadok ǰapkan stadal örmör it-nə-mi əm-ni-tnə.
 that.ABL eight herd.R.PL reindeer.REF.PL see-DIRINT-CVB.COND come-PTCP.PST-3PL
 「あそこから 8 班の人たちが自分たちのシカを見るために来た」

(BP field data¹⁰)

(a) 移動目的 — 目的副動詞語尾 -dA-PERS + 移動動詞

2-2) nadan stadala hor-də-j... ılan stadalı hor-ri-w nadan stadala.
 seven herd.R.LOC go-CVB.PURP-REF.SG three herd.R.PROL go-PST-1SG seven herd.R.LOC
 「7 班に行くため...私は 3 班を通して 7 班に行った」

(BP field data)

(b) 一般目的 — 目的副動詞語尾 -dA-PERS + 非移動動詞

2-3) tiəmi bi bəj-u dayanı domŋəkki nahaa kuruk hor-də-j
 therefore 1SG.NOM self.Y-1SG even.Y taiga.DIR very.Y always.Y go-CVB.PURP-REF.SG
 məkuk-kərə-rə-m.
 thrash.around-HAB-N.FUT-1SG

「それで、私自身はいつもタイガに行くため、努力する」

(BP field data)

(c) 意志 — 目的副動詞語尾 -dA-REF + nək- 「する」

2-4) tiik bi öppöska-j ga-rıjı, tiik ərbəçən problema-t
 now 1SG.NOM holidays-REF.SG take-CVB.ANT now such problem-INS
 gurgəwçi-də-j nək-ə-d-də-m.
 work-CVB.PURP-REF.SG do-E-PROG-N.FUT-1SG

「休暇を取り、そのような問題に取り組もうとしている」

(BP field data)

(d) 命令 (遠未来) — 目的副動詞語尾 -dA-REF

2-5) jʊʊ-la taŋ-də-j.
 house-LOC read-CVB.PURP-REF.SG

「家で読みなさい」

(Novikova 1968: 99)

Negidal (I)

(a) 移動目的 — 条件副動詞語尾 -mI + 移動動詞

3-1) bitta amin-ti bələči-wkəən-mi əmə-ča.
 1PL.INCL.NOM father-1PL.INCL help-CAUS-CVB.COND come-PTCP.PST
 「私たちの父は (私たちに) 彼を手伝わせに来た」

(Pevnov and Khasanova 2003: 66)

¹⁰ 本稿におけるエウエン語の用例は、Brigitte Pakendorf 氏からご提供いただいたエウエン語テキスト (西方言) に基づく。貴重な調査資料を共有して下さった Pakendorf 氏に深く感謝を申し上げたい。

(a) 移動目的 — 目的副動詞語尾 -dA-PERS + 移動動詞

3-2) *noŋan-du-n* *ləbgə-də-j* *nado,* *ʃəb-də-j* *ŋəŋə-jə-n.*
 3SG-DAT-3SG eat-CVB.PURP-REF.SG necessary eat-CVB.PURP-REF.SG go-N.FUT-3SG
 「彼には食うことが必要だ、食べようと、行く」

(風間 2002: 18)

(b) 一般目的 — 目的副動詞語尾 -dA-PERS + 非移動動詞

3-3) *bii* *mɔjɪn-tɪxɪ* *təə-də-n* *bələč-čə-w.*
 1SG.NOM horse-DIR sit-CVB.PURP-3SG help-PTCP.PST-1SG
 「私は馬へ座れるよう手伝った」

(風間 2002: 122)

(c) 意志 — 目的副動詞語尾 -dA-REF + *nixə*- 「する」

3-4) *moo-ŋ-u* *tibgu-də-j* *nixə-jə-n.*
 tree-ALIEN-1PL.EXC take.down-CVB.PURP-REF.SG do-N.FUT-3SG
 「我らの木を倒そうとするんです」

(風間 2002: 122)

(d) 命令 (遠未来) — 目的副動詞語尾 -dA-REF

3-5) *suu=də* *munətki* *niməj-də-wəj.*
 2PL.NOM=CLT 1PL.EXC.DIR come.as.a.guest-CVB.PURP-REF.PL
 「おまえたちも私たちの所へお客に来てくれ」

(風間 2002: 117)

3.2. 東ツングース諸語

表 4. 東ツングース諸語における目的形式とその用法 (Ol: 風間 2010a, Nn: 風間 2010b, Ut: 池上 2010, Tsumagari 2009, Oc: Avrorin and Boldyrev 2001, U: 風間 2010c に基づき、筆者作成)

	移動目的	一般目的	意志	命令
ウルチャ語 Ol (III)	-ml -bdɪ (同主語) -bdA-PERS (異主語)	-bdɪ (同主語) -bdA-PERS (異主語)	?	-
ナーナイ語 Nn (III)	-ml -(pO)gO-PERS	-(pO)gO-PERS	-(pO)gO-REF+ta 「する、言う」	-
ウイльта語 Ut (III)	-mi -buʃji (同主語) -buddoo-PERS (異主語)	-buʃji (同主語) -buddoo-PERS (異主語)	-buʃji+to- 「する」	-
オロチ語 Oc (II)	-mi -(A)IA(k)A-PERS	-(A)IA(k)A-PERS	?	-
ウデヘ語 U (II)	-mi -IAgA-PERS~ -IA(A)-PERS	-IAgA-PERS~ -IA(A)-PERS	-IAgA-REF~ -IA(A)-REF+ <i>nixə</i> - 「する」	-

表4は、ロシア領のアムール川流域、沿海州、サハリン島で話される東ツングース諸語に属するウルチャ語 (III), ナーナイ語 (III), オロチ語 (II), ウデヘ語 (II), ウイルタ語 (III)における目的形式とその用法をまとめたものである。

東ツングース諸語にも、北ツングース諸語と同じく、副動詞語尾*-mIによる移動目的の用法 (4-1, 5-1, 6-1, 7-1, 8-1)が見られる¹¹。

東ツングース諸語は、表4のように、ロシア領第I群ツングース諸語の目的副動詞語尾-dAA-PERSと異なるタイプの目的副動詞語尾 (ウルチャ語: -bdA-PERS, ナーナイ語: -(pO)gO-PERS, ウイルタ語: -buddoo-PERS, オロチ語: -(A)IA(k)A-PERS, ウデヘ語: -IAgA-PERS~-IA(A)-PERS)が見られ、移動目的 (4-2, 5-2, 6-2, 7-2, 8-2)と一般目的 (4-3, 5-3, 6-3, 7-3, 8-3)を構成する。

筆者は、東ツングース諸語に見られる目的副動詞語尾のほとんどが指定格との関連性があると見ている。これに関しては、便宜上ナーナイ語、ウイルタ語、ウルチャ語 (第III群ツングース諸語)とオロチ語、ウデヘ語 (第II群ツングース諸語)の2つのグループに分けて論じる。表5は、東ツングース諸語における指定格と目的副動詞語尾を並べたものである。

表5. 東ツングース諸語における指定格と目的副動詞語尾 (風間 1999)

	ウルチャ語 Ol (III)	ナーナイ語 Nn (III)	ウイルタ語 Ut (III)	オロチ語 Oc (II)	ウデヘ語 U (II)
指定格	-ju	-go	-ddoo	-IAA~jAA~nAA	-nA
目的副動詞	-bdi (同主語) -bdA-PERS (異主語)	-(pO)gO-PERS	-bujji (同主語) -buddoo-PERS (異主語)	-(A)IA(k)A-PERS	-IAgA-PERS~ -IA(A)-PERS

風間 (2010b: 246)は、ナーナイ語の目的副動詞語尾 -(pO)gO-PERS に対し、格のような振る舞いをする事から、何らかの名詞化接辞と指定格の組み合わせからなる可能性を提起している。池上 (2001: 164)は、ウイルタ語の目的副動詞語尾に対し、目的を表す指定格形として記述し、非人称接尾辞 -bu (?)と指定格 -ddoo が結合したと推定している。ウルチャ語の目的副動詞語尾も指定格と関連性があるかは不明であるが、その形式から見て、-bu と指定格 -ju が結合した可能性、-bu とロシア領第I群ツングース諸語における目的副動詞語尾 -dA-PERS が結合した可能性 (風間 1999)、ウイルタ語の目的副動詞語尾からの借用の可能性が考えられるが、これに関しては、さらなる検討が必要である。

オロチ語とウデヘ語には、お互いに音韻対応が想定できる目的副動詞語尾 -(A)IA(k)A-PERS (オロチ語)、-IAgA-PERS~-IA(A)-PERS (ウデヘ語)がある¹²。オロチ語の目的副動詞語尾

¹¹ 東ツングース諸語でも、北ツングース諸語と同じく、副動詞語尾*-mIが移動動詞と結合して移動目的を構成する際、接辞*-nA, *-ndA「～しに行く」がともに用いられる用例が目立つ。

¹² 一方、中国領に分布する第II群ツングース諸語であるヘジェン語には、ロシア領の第II群ツングース諸語に見られる目的副動詞語尾が存在しない。ヘジェン語に関する文法記述である安 (1986: 55), Zhang (2013: 136-137)は、-nəmiを目的副動詞語尾として定義している。しかし、主に移動目的を構成するこの形式は、他のツングース諸語でも観察される移動目的を示す接辞 -nA と副動詞語尾 -mi が結合したのものであると考えられるため、目的副動詞語尾としての分類が妥当でないかもしれない。また、李 (2006: 44)は、李氏による調査では、同形式が確認できないと述べている。

に関しては、Avrorin and Boldyrev (2001: 366)が指定格 -IAA~jAA~nAA と同一形式であると指摘しているが、ウデヘ語の目的副動詞語尾の起源は不明である。そこで、ウデヘ語の目的副動詞語尾 -IAgA-PERS~-IA(A)-PERS と指定格 -nA の関連性について検討する。ウデヘ語の人称副動詞語尾にも、従属節の主語の人称と数に関する情報が、名詞の所有接辞と同一形式で表示される。従属節と主節の主語の一致と関係なく、用いられる遠過去副動詞語尾のような同・異主語人称副動詞語尾は、従属節と主節の主語が同じである場合、表 6 のとおり、再帰単数 -i と再帰複数 -fi が現れる。しかし、目的副動詞語尾は、風間 (2012c: 228)でも述べられているように、再帰単数 -mi と再帰複数 -fi が用いられる。このように変わった再帰所有接辞が用いられる現象は、指定格 -nA (表 6 参照)のみであることは興味深い。また、ツングース諸語のうち、系統的にウデヘ語ともっとも近い関係であると考えられるオロチ語の指定格にも -nAA が異形態として使われることも考慮しなければならない。そのため、ウデヘ語の目的副動詞語尾にも、指定格と関連性がある形式が含まれている可能性が高い。

表 6. ウデヘ語における格形式と同・異主語人称副動詞語尾の再帰人稱接辞 (Nikolaeva and Tolskaya 2001, Girfanova 2002, 風間 2012c に基づき、筆者作成)

格形式に再帰人稱表示 (kusiga 「ナイフ」)		同・異主語人稱副動詞語尾	副動詞語尾に 再帰人稱表示
指定格以外の格	SG kusiga-CASE-i PL kusiga-CASE-fi	遠過去副動詞語尾	SG -jiA-i PL -jiA-fi
指定格	SG kusiga-na-mi PL kusiga-na-fi	目的副動詞語尾	SG -IAgA-mi PL -IAgA-fi

東ツングース諸語の目的形式による意志用法に関しては、ナーナイ語、ウデヘ語、ウイルタ語は、目的副動詞語尾が「する」動詞と一緒に用いられる際、「~しようとする」という分析的意志表現 (5-4, 6-4, 8-4)を構成する。

しかし、ロシア領第I群ツングース諸語に観察される、目的副動詞語尾を用いた遠未来命令用法は東ツングース諸語に見られない (表 4, 表 7-1, 表 7-2, 表 7-3, 例文 6-5, 例文 8-5 参照)。但し、ナーナイ語の目的副動詞語尾は、1 人称主語の勧誘表現 (5-5)として用いられることが確認できる。

表 7-1. 東ツングース諸語 (第III群)の命令法 (風間 2010ab, 池上 2001 に基づき、筆者作成)

	近未来		遠未来	
	2SG	2PL	2SG	2PL
ウルチャ語 Oι (III)	-(r)U(rU)	-(r)k(sU)	-sAArI	-sAr-tU~-sAr-sU
ナーナイ語 Nn (III)	-rOO~-O~-dOO	-O-sO~rOO- sO~-dOO-sO	-xAArI	-xAAr-sO
ウイルタ語 Ut (III)	-ru	-ru-su	-ttAAri~-ssAAri	-ttAAri-su~-ssAAri-su

表 7-2. オロチ語 (第II群)の命令法 (Avrorin and Boldyrev 2001)

	2SG	2PL
オロチ語 Oc (II)	-wA~γA~kA~pA~jA	-wA-sU~γA-sU~kA-sU~pA-sU~jA-sU

表 7-3. ウデヘ語 (第II群)の命令法 (風間 2010c)

	近未来		遠未来 ¹³	
	2SG	2PL	2SG	2PL
ウデヘ語 U (II)	-jA	-jA-u	-tA-i=jA	-tA-u=jA

Ulcha (III)

(a) 移動目的 — 同時副動詞語尾 -mI + 移動動詞

- 4-1) bii tu xusə nakʊ-wa gələ-**nda**-ju-**mi** ʊgda-ji-pʊ tu **ji**ju-xəm-bi.
 1SG.NOM that male chicken-ACC seek-DIRINT-REP-CVB.SIM boat-INS-1PL that return-PTCP.PST-1SG
 「私はそうして雄の鶏を探しに行つて私たちの船でそうして戻つて来た」
 (風間 2008: 148-149)

(b) 一般目的 — 目的副動詞語尾 -bdI/-bdA-PERS + 移動動詞

- 4-2) ambɪ ənbi xəəri-ɲdə-u, məən bi-i ičə-**bdə**-ni.
 father.REF.SG mother.REF.SG call-DIRINT-IMP.2SG self be-PTCP.PRS see-CVB.PURP-3SG
 「自分の父と母を呼びに行け、自分の暮らしているのを見せるために」
 (風間 2008: 81)

(c) 一般目的 — 目的副動詞語尾 -bdI/-bdA-PERS + 非移動動詞

- 4-3) ɲii, xɑč-xɑč ɲii, xupu-**bdə**-ni bargɪ-xəm-bi.
 person other person play-CVB.PURP-3SG prepare-PTCP.PST-1SG
 「他の人が遊ぶよう、私が準備した」
 (Sunik 1985: 60)

Nanay (III)

(a) 移動目的 — 同時副動詞語尾 -mI + 移動動詞

- 5-1) sogdata-wa bota-**nda**-mi ʌnə-i nii ʌnə-i,
 fish-ACC catch-DIRINT-CVB.SIM go-PTCP.PRS person go-PTCP.PRS
 jiju-xən nii jiju-xən.
 return-PTCP.PST person return-PTCP.PST
 「魚を捕りに行く者は行き、戻つて来た者は戻つた」
 (風間 2008: 92)

¹³ -tA-は、第I群ツングース諸語に見られる遠未来命令形と対応する形式である可能性があるが、これに関しては、さらなる検討が必要である。また、これを遠未来命令形ではなく別の文法形式として記述している文献 (Nikolaeva and Tolskaya 2001: permissive 許容形、Girfanova 2002: optative 願望形)も見られることを記しておく。

(a) 移動目的 — 目的副動詞語尾 -(pO)gO-PERS + 移動動詞

5-2) sii taim-pugu-i ĵiok-či-i ənu-ru.
2SG.NOM take.a.rest-CVB.PURP-REF.SG house-DIR-REF.SG go.back-IMP.2SG
「休むため、自分の家へ行きなさい」

(Avrorin 1968: 144)

(b) 一般目的 — 目的副動詞語尾 -(pO)gO-PERS + 非移動動詞

5-3) ĥoani daŋsa-wa xola-go-i-wa buu-xə-ni.
3SG.NOM book-ACC read-CVB.PURP-1SG-OCM give-PTCP.PST-3SG
「彼は私が読むように本をくれた」

(Avrorin 1968: 144)

(c) 意志 — 目的副動詞語尾 -(pO)gO-PERS + ta- 「する、言う」

5-4) xaosi ənə-gu-ji ta-i-si.
where go-CVB.PURP-REF.SG do-PRS.PTCP-2SG
「どこへ行こうというのか (おまえは)」

(風間 2010b: 246)

(d) 勧誘 — 目的副動詞語尾 -(pO)gO-PERS

5-5) mii ičə-gu-ji-jə.
1SG.NOM see-CVB.PURP-1SG-OCM
「私が見よう」

(風間 2010b: 243)

Uilta (III)

(a) 移動目的 — 非完了副動詞語尾 -mi + 移動動詞

6-1) itə-ndə-mi ŋənə-xə-ni.
see-DIRINT-CVB.COOR go-PTCP.PST-3SG
「見に行った」

(池上 2002: 20)

(a) 移動目的 — 目的副動詞 -buĵji/-buddoo-PERS + 移動動詞

6-2) bii ŋənnec-wi waa-buĵji.
1SG.NOM go+PTCP.IMP.1SG kill-CVB.PURP.REF.SG
「私は狩りに行く」

(山田 2013: 219)

(b) 一般目的 — 目的副動詞語尾 -buĵji/-buddoo-PERS + 非移動動詞

6-3) čowočči maurree andu-buĵji miinə-puri.
after.that dried.fish+ACC make-CVB.PURP.REF.SG cut-IPSN.PTCP.IMP.1SG
「その後干し魚を作るように切る」

(山田 2013: 187)

(c) 意志 — 目的副動詞語尾 -buĵji + to- 「する」

6-4) xamarree-la ga-buĵji to-ila-mi.
back-LOC buy-CVB.PURP.REF.SG do-FUT-1SG

「あとで買おうかな」

(池上 1997: 207)

(d) 命令 (遠未来) — -ttAAri/-ssAAri

6-5) isu-mi itə-ttəərii.
return-CVB.COOR see-FUT.IMP

「帰ってきてみなさい」

(Tsumagari 2009: 19)

Orochi (II)

(a) 移動目的 — 同時副動詞語尾 -mi + 移動動詞

7-1) asaanta ŋənə-xə-ti jiiktə-wə gaŋ-na-mi.
women.PL go-PTCP.PST-3PL berry-ACC take-DIRINT-SIM.CVB

「女性たちはベリーを取りに行った」

(Avrorin and Boldyrev 2001: 366)

(a) 移動目的 — 目的副動詞語尾 -(A)IA(k)A-PERS + 移動動詞

7-2) minəwə gənə-gi-xə-ti, [iskola] tətəči-la-mu.
1SG.ACC take-REP-PTCP.PST-3PL school study-CVB.PURP-1PL.EXC

「私を連れ去りに来た、学校で勉強するためだ」

(風間 1996: 45)

(b) 一般目的 — 目的副動詞語尾 -(A)IA(k)A-PERS + 非移動動詞

7-3) buu daŋsa-wa taŋi-laa-bbaji ga-či-mu.
1PL.NOM.EXC book-ACC read-CVB.PURP-REF.PL take-PTCP.PST-1PL.EXC

「私たちは本を読むために買った」

(Avrorin and Boldyrev 2001: 212)

Udihe (II)

(a) 移動目的 — 同時副動詞語尾 -mi + 移動動詞

8-1) nuani shkola-tigi tatusi-na-mi ŋənə-i-ni.
3SG.NOM school-DIR study-DIRINT-CVB.SIM go-PTCP.PRS-3SG

「彼は学校へ勉強しに行く」

(field data)

(a) 移動目的 — 目的副動詞語尾 -IAgA-PERS~-IA(A)-PERS + 移動動詞

8-2) bii xuŋa-jii-ji mamaasala-laga-mi əmə-jə.
1SG.NOM younger.sister-INS-REF.SG marry-CVB.PURP-REF.SG come-IMP.2SG

「私の妹と結婚するために来なさい」

(風間 2004: 174)

(b) 一般目的 — 目的副動詞語尾 -IAgA-PERS~-IA(A)-PERS + 非移動動詞

8-3) ulə-wə-ni diga-laa-fi waa-ja-fi.
meat-ACC-3SG eat-CVB.PURP-REF.PL kill-FUT-1PL.INCL

「肉を食べるために殺してしまおう」

(風間 2004: 62)

(c) 意志 — 目的副動詞語尾 -lAgA-REF~lA(A)-REF + nixə- 「する」

8-4) bii liasi aa-mu-i, ŋua-laga-mi nixə-ø-mi.
 ISG.NOM very sleep-DES-PTCP.PRS sleep-CVB.PURP-REF.SG do-PRS-1SG
 「私はひどく眠いから、寝ることにするよ」

(風間 2010c: 228)

(d) 命令 (遠未来) — -tA-PERS=ǰA

8-5) aju-mi=da gada-ta-i=ǰa.
 like-CVB.SIM=CLT take-FUT.IMP-1SG=CLT
 「もし (おまえが彼女を) 好きなら、連れていけ」

(風間 2010c: 219)

3.3. 南ツングース諸語

表 8 は、中国領で話される南ツングース諸語 (ソロン語 (I), 満洲語 (IV), シベ語 (IV)) の目的形式とその用法を整理したものである。

表 8. 南ツングース諸語における目的形式とその用法 (S: 胡・朝克 1986, M: 津曲 1981, 2002, Gorelova 2002, Sb: 李・仲 1986, 朝克 2006, Zikmundová 2013 に基づき、筆者作成)

	移動目的	一般目的	意志	命令
ソロン語 S (I)	-m(l) ǰarɪn	ǰarɪn	-m(ɪ) + gun- 「言う」	遠未来-dAA-PERS
満洲語 M (IV)	-mə ǰalin	-mə ǰalin	-ki sə- 「言う」	-
シベ語 Sb (IV)	-m(ə) ǰalin	-m(ə) ǰalin	-m(ə) + zə- 「言う」	-

まず、これらの南ツングース諸語でも、ロシア領ツングース諸語と同じく副動詞語尾*-mlによる移動目的を構成する用例 (9-1, 10-1, 11-1)が確認できる¹⁴。但し、満洲語 (満洲語文語) とシベ語は、非完了副動詞語尾-m(ə)が一般目的の標識としても用いられる点 (10-4, 11-4)において、他のツングース諸語と異なっている。

また、南ツングース諸語は、共通してロシア領ツングース諸語に見られた目的副動詞語尾が存在しない¹⁵。これは、本稿では詳しく論じていない、第II群ツングース諸語であるヘジ

¹⁴ 南ツングース諸語の場合、移動目的の-nA がともに用いられる頻度は、ロシア領ツングース諸語に比べ、低いと考えられる。

¹⁵ 但し、同じく中国東北地方で話されるが、ソロン語の北東側に分布するオロチョン語 (I)には、目的副動詞語尾-dAA-PERS と目的後置詞 ǰAAlm がともに観察 (1 文に両方の形式がともに現れる余剰的な現象 (redundant use 下記参照)も見られる)され、Back (2017)は、同現象について、ロシア領第I群ツングース諸語と中国領第I群ツングース諸語の中間的な特徴を反映している可能性を指摘した。

tari koril-də ɕanjalaa-daa-wi ǰaalm, əmə-čəə.
 that meeting-DAT participate-CVB.PURP-REF.SG PURP.P come-PTCP.PST.3
 「彼はこのミーティングに参加するために来た」

(胡 1986: 144)

エン語も同じ状況である。その代わり、目的後置詞¹⁶ (ソロン語: *jarin*, 満洲語、シベ語: *jalın*) が移動目的 (9-2, 10-2, 11-2) と一般目的 (9-3, 10-3, 11-3) を構成するのが大きな特徴である¹⁷。しかし、同形式を用いた意志と命令の用法は見られない。

南ツングース諸語の目的形式による意志表現¹⁸に関しては、発話動詞が構成要素として用いられる点 (9-4, 10-5, 11-5) が一致しているが、前部要素に相違が見られ、ソロン語とシベ語の場合は副動詞語尾 (ソロン語: *-m(I)*, シベ語: *-m(ə)*) が、満洲語の場合は希求法の形式-*ki* が現れる。

目的形式を用いた命令用法に関しては、南ツングース諸語には観察されないが、ソロン語において、ロシア領の第I群ツングース諸語の遠未来命令形と対応する形式 (9-5) は見られる。但し、ソロン語において、同一形式が目的副動詞語尾として用いられることはない。

Solon (I)

(a) 移動目的 — 非完了副動詞語尾 *-m(I)* + 移動動詞

9-1) <i>bii</i>	<i>ədu</i>	<i>əən</i>	<i>gələə(-nə)-m</i>	<i>əm-su.</i>
1SG.NOM	this.DAT	medicine	seek-DIRINT-CVB.IMPF	come-PTCP.PST.1SG
「私はここに薬を探しに来た」				

(field data)

(a) 移動目的 — 後置詞 *jarin* + 移動動詞

9-2) <i>bii</i>	<i>ədu</i>	<i>sinji</i>	<i>baxaldı-r-nıı</i>	<i>jarin</i>	<i>əm-su.</i>
1SG.NOM	this.DAT	2SG.INS	meet-PTCP.IMPF-GEN	PURP.P	come-PTCP.PST.1SG
「私はあなたに会いにここに来た」					

(field data)

(b) 一般目的 — 後置詞 *jarin* + 非移動動詞

9-3) <i>nuxun-bəl</i>	<i>sırtan-da</i>	<i>ii-r-nii</i>	<i>jarin</i>
younger.brother-1SG	school-DAT	enter-PTCP.IMPF-GEN	PURP.P
<i>baraan</i>	<i>bitigii</i>	<i>əəri-ji-rən.</i>	
a.lot	book.IND.ACC	read-PROG-N.PST.3	
「私の弟は、大学に入るため、たくさんの本を読んでいる」			

(field data)

(c) 意志 — 非完了副動詞語尾 *-m(i)* + *gun-* 「言う」¹⁹

9-4) <i>bii</i>	<i>timaasin</i>	<i>sırtan-da</i>	<i>ninə-m</i>	<i>gun-ji-m.</i>
1SG.NOM	tomorrow	school-DAT	go-CVB.IMPF	say-PROG-N.PST.1SG
「私は、明日学校に行こうとしている」				

(field data)

¹⁶ 目的用法以外に、「～のゆえに、～のために」のような理由の用法もある。

¹⁷ 安 (1986: 63)によると、ヘジエン語にも、目的後置詞 *jələč* が見られるというが、同形式を用いた移動目的と一般目的の用例は確認できない。また、李 (2006), Zhang (2013)には、同形式に関する記述が見られない。

¹⁸ ソロン語と満洲語の目的形式は、意志用法に加え、願望 (desiderative) を表す用法も見られる。

¹⁹ 他に、未完了副動詞語尾-*m(i)* + 引用標識 *gunkən* (< *gun-* 「言う」 + 同時副動詞語尾**-nAkAn*)の組み合わせによる意志・願望表現もある。

(d) 命令 (遠未来) — -dAA-PERS

9-5) šii tɪma[a]ʂɪm əddə bəʂjɪn xoton-dʊ nən-də-wi.
2SG.NOM tomorrow early Beijing city-DAT go-FUT.IMP-REF.SG

「(あることを済ませた後) あなたは明日早く北京に行きなさい」

(胡・朝克 1986: 75)

Manchu (文語) (IV)

(a) 移動目的 — 非完了副動詞語尾 -mə + 移動動詞

10-1) bi booha uda-mə gənə-rə.
1SG.NOM snack buy-CVB.IMPF go-PTCP.IMPF

「私は肴を買いに行こう」

(津曲 1981: 154)

(a) 移動目的 — 後置詞 jalin + 移動動詞

10-2) mini niməku bə duləmbu-rə jalin.
1SG.GEN sickness ACC cure-PTCP.IMPF PURP.P

fučihi sə kūbuli-fi j̄i-hə ayu.

Buddha PL transform-CVB.ANT come-PTCP.PST PTCL

「私の病を治すため、佛たちが変身して来たのではないか」

(崔 et al. 2012: 333)

(b) 一般目的 — 非完了副動詞語尾 -mə + 非移動動詞

10-3) sain kooli bə ala-bu-mə baitala-ki.
good example ACC notify-CAUS-CVB.IMPF use-OPT

「良い例を告げさせるために用いたい」

(津曲 1981: 155)

(b) 一般目的 — 後置詞 jalin + 非移動動詞

10-4) soorin bə sira-ra jalin, təmšə-ndu-mbi.
throne ACC succeed-PTCP.IMPF PURP.P compete-REC-N.PST

「王位を継承するため、互いに争う」

(崔 et al. 2012: 174)

(c) 意志 — 願望形 -ki + sə- 「言う」

10-5) anda si ərə morin bə unča-ki sə-mbi-o.
friend 2SG.NOM this horse ACC sell-OPT say-N.PST-Q

「友よ、君はこの馬を売ろうとしているか」

(河内・清瀬 2002: 103)

Sibe (IV)

(a) 移動目的 — 非完了副動詞語尾 -m(ə) + 移動動詞

11-1) aʂjig ərin-t gum təwat iw-m gənə-m.
small time-DAT all there play-CVB.IMPF go-IMP

「小さい時、みんなあそこに遊びに行っていた」

(Zikmundová 2013: 59)

(a) 移動目的 — 後置詞 *jəlin* + 移動動詞

11-2) *bitxə* *χula-r* ***jəlin*** *bo* *bəijɨŋ-d* *gənə-m*.
 book read-PTCP.IMPF PURP.P 1PL.EXC.NOM Beijing-DAT go-IMPF
 「私たちは勉強しに北京に行く」

(李・仲 1986: 107)

(b) 一般目的 — 非完了副動詞語尾 *-m(ə)* + 非移動動詞

11-3) *bo* *ju* *anthəw* *jamushun* *bəda* ***uluwu-m***
 1PL.EXC.NOM two guest.ACC evening meal treat-CVB.IMPF
ʂælih *bi-hə-ŋə*.
 invite.PTCP.PFV be-PTCP.PFV-NMLZ
 「私たちは2人のお客さんを夕食のため、招待したのだ」

(朝克 2006: 301)

(b) 一般目的 — 後置詞 *jəlin* + 非移動動詞

11-4) *tər* *ərinb* *duləwə-r* ***jəlin*** *gaŋčin* *fithə-m*.
 that time.ACC spend-PTCP.IMPF PURP.P piano play-IMPF
 「彼は、その時を過ごすため、ピアノを弾く」

(朝克 2006: 367)

(c) 意志 — 非完了副動詞語尾 *-m(ə)* + *zə-* ‘say’

11-5) ***ainə-m*** ***zə-meye?***
 do.what-CVB.IMPF say-PROG
 「何をするつもりなの」

(Zikmundová 2013: 167)

4. おわりに

以上のとおり、本稿ではツングース諸語の地理的分布による目的形式とその用法の相違について検討し、その結果を表9と表10に整理した。

副動詞語尾**-mi* + 移動動詞の構造で移動目的を示し得る点においては、すべてのツングース諸語に類似性が見られる。ツングース諸語の地理的分布による目的形式とその用法の相違については、以下のとおりである。

・北ツングース諸語 (エウエンキー語 (I), エウエン語 (I), ネギダール語 (I)) — 共通して目的副動詞語尾-*dAA-PERS*が見られ、「する」動詞と結合して意志を表示、遠未来命令の標識 (再帰所有接辞付加)として用いられる。

・東ツングース諸語 (ナーナイ語 (III), オロチ語 (II), ウデヘ語 (II), ウイルタ語 (III)) — 北ツングース諸語の目的副動詞語尾-*dAA-PERS*と異なるタイプの目的副動詞語尾が見られ、指定格との関連性が考えられる。また、ナーナイ語、ウデヘ語、ウイルタ語の目的副動詞語尾は、「する」動詞と結合し、意志表現を表す用例が確認できた。すべての東ツングース諸語の目的副動詞語尾は、ロシア領第I群ツングース諸語と違って、遠未来命令の標識として用いられない。

・南ツングース諸語 (ソロン語 (I), 満洲語 (IV), シベ語 (IV)) — 北ツングース諸語と東ツングース諸語に見られる目的副動詞語尾は存在しない²⁰。その代わり、目的後置詞が目的節形成要素として働くが、意志や命令の標識として使われることはない。これらのツングース諸語において、意志を示す表現に発話動詞が用いられるのも共通している。また、満洲語とシベ語の副動詞語尾-m(ə)は、移動目的だけではなく、一般目的の形式としても使われる。

表 9. ツングース諸語における目的形式とその用法

	移動目的	一般目的	意志	命令
エウエンキー語 (I)	-mi -dAA-PERS	-dAA-PERS	-dAA-REF+nəka- 「する」	遠未来-dAA-REF
エウエン語 (I)	-mI -dA-PERS	-dA-PERS	-dA-REF+nək- 「する」	遠未来-dA-REF
ネギダール語 (I)	-mI -dAA-PERS	-dAA-PERS	-dAA-REF+ nixə- 「する」	遠未来-dAA-REF
ウルチャ語 (III)	-mI -bdI (同主語) -bdA-PERS (異主語)	-bdI (同主語) -bdA-PERS (異主語)	?	-
ナーナイ語 (III)	-mI -(pO)gO-PERS	-(pO)gO-PERS	-(pO)gO-REF+ta- 「する、言う」	-
オロチ語 (II)	-mi -(A)IA(k)A-PERS	-(A)IA(k)A-PERS	?	-
ウイльта語 (III)	-mi -bujji (同主語) -buddoo-PERS (異主語)	-bujji (同主語) -buddoo-PERS (異主語)	-bujji+to- 「する」	-
ウデヘ語 (II)	-mi -IAgA-PERS~ -IA(A)-PERS	-IAgA-PERS~ -IA(A)-PERS	-IAgA-REF~ -IA(A)-REF+ nixə- 「する」	-
ソロン語 (I)	-m(I) jarin	jarin	-m(i)+gun- 「言う」	遠未来-dAA-PERS
満洲語 (IV)	-mə jalin	-mə jalin	-ki sə- 「言う」	-
シベ語 (IV)	-m(ə) jalin	-m(ə) jalin	-m(ə)+za- 「言う」	-

²⁰ 中国領に分布する第II群ツングース諸語であるヘジェン語も同様である。

以上のことから、表 10 のように、ツングース諸語の地理的分布 (北・東・南)によって、目的形式とその用法が異なっていると考えられる。

表 10. ツングース諸語の地理的分布による目的形式とその用法の相違

ツングース諸語	目的形式	目的形式による 意志用法	目的形式による 遠未来命令用法
エウエンキー語 (I)			
北	エウエン語 (I) ネギダール語 (I)	目的副動詞 type 1	目的副動詞 type 1+「する」動詞 目的副動詞 type 1-REF
	ウルチャ語 (III)	目的副動詞 type 2? ?	-
	ナーナイ語 (III)	目的副動詞 type 2 (< 指定格)	目的副動詞 type 2+「する」動詞 -
東	オロチ語 (II)	目的副動詞 type 2 (< 指定格)	? -
	ウデヘ語 (II)	目的副動詞 type 2 (< 指定格)	目的副動詞 type 2+「する」動詞 -
	ウイルタ語 (III)	目的副動詞 type 2 (< 指定格)	目的副動詞 type 2+「する」動詞 -
	ソロン語 (I)	目的後置詞	-m(I) + gun- 「言う」 -
南	満洲語 (IV)	目的後置詞	-ki + se- 「言う」 -
	シベ語 (IV)	目的後置詞	-m(ə) + zə- 「言う」 -

しかし、本稿は次のような課題がある。ツングース諸語の中、もっとも広い範囲にわたって分布するエウエンキー語²¹やエウエン語の方言間における相違について検討しなければならない。また、東ツングース諸語に属するウルチャ語の目的副動詞語尾の起源についても、明らかになっていない。さらに、上記で示した本稿の結論がツングース諸語内部における変化によるか、周辺言語からの影響²²によるか、現時点では定かではない。これらに関しては、今後の課題としたい。

²¹ エウエンキー語の東方言には、未来直説法、勸奨法、目的副動詞の多様な形式がそれぞれ発話動詞とともに用いられ、目的用法として機能すると指摘されている (Pakendorf 2013: 271-272)。

²² 北ツングース諸語の周辺言語であるサハ語 (チュルク諸語)において、目的副動詞語尾-AArI が遠未来命令法として用いられる点においては、北ツングース諸語と類似している。モンゴル諸語のダグール語にも、目的副動詞語尾-gAAn-PERS が見られ、遠未来命令の形式 (再帰接辞が付加)としても用いられる。Tsumagari (2003: 144, 146)は、ダグール語における目的副動詞語尾による遠未来命令用法について、ツングース諸語からの影響の可能性を示唆している。モンゴル語 (ハルハ方言)においては、目的副動詞-xAAr (形動詞-x + 道具格-AAr に由来)が見られるが、意志や遠未来命令の用法は確認できない。なお、モンゴル語には、未来形動詞と発話動詞の組み合わせによる分析的構文が目的と意志表現を構成することがある。さらに、モンゴル語には、名詞句や形動詞に後続し、目的節を構成する後置詞 tul-d (-d は与格)も見られる。南ツングース諸語に大きく影響を与えたと考えられる中国語では、目的を示す为了 wèile, 以便 yìbiàn のような目的介詞が目的節を成す。北ツングース諸語とサハ語における目的副動詞による遠未来命令の用法、南ツングー

略号一覧

1, 2, 3: 1st person, 2nd person, 3rd person, ABL: ablative, ACC: accusative, ADVR: adverbializer, ALIEN: alienability, ANT: anterior, CAUS: causative, COND: conditional, COOR: coordinative, CVB: converb, DAT: dative, DES: desiderative, DIR: directive, DIRINT: directional-intentional, E: epenthesis, EXC: exclusive, GEN: genitive, HAB: habitual, HORT: hortative, IMP: imperative, IMPF: imperfective, INCL: inclusive, IND: indefinite, INS: instrumental, IPSN: impersonal, LOC: locative, NEG: negative, N.FUT: non-future, NOM: nominative, NMLZ: nominalizer, N.PST: non-past, OCM: oblique case marker, OPT: optative, PFV: perfective, PL: plural, PROG: progressive, PRS: present, PTCP: participle, PURP: purposive, P: postposition, PTCL: particle, Q: question marker, R: Russian copy, REC: reciprocal, REF: reflexive, REP: repetitive-reversive, SG: singular, SIM: simultaneous, SMLF: semelfactive, Y: Yakut copy, -: suffix boundary, +: fusion, =: clitic boundary.

謝辞

本稿の作成に当たり、貴重な指摘やコメントをくださった匿名の査読者の先生方に深く感謝を申し上げます。当然ながら、本稿におけるいかなる誤りは、すべて筆者に帰する。

参考文献

- 安俊 (1986) 『赫哲语简志』 北京：民族出版社
- Avrorin, V. A. (1968) Nanajskij jazyk. Jazyki narodov SSSR Vol.5. *Mongol'skie, Tunguso-Man'chzhurskie i Paleoaziatskie Jazyki*: 129-148. Skorik, P. R. (ed.) Leningrad: Nauka
- Avrorin, V. A. and B. V. Boldyrev (2001) *Grammatika Orochskogo Jazyka*. Novosibirsk: izdatel'stvo. SO RAN
- Baek, S. (2017) Grammatical peculiarities of Oroqen Evenki from the perspective of genetic and areal linguistics. *Linguistic Typology of the North* 4: 13-31.
- Benzing, J. (1955) *Die Tungusischen Sprachen: Versuch einer Vergleichenden Grammatik*. Wiesbaden: Steiner
- Boldyrev, B. V. (1994) *Russko-Evenkijskij Slovar' : chast' 1*. Novosibirsk: Nauka
- Bulatova, N. and L. Grenoble (1999) *Evenki*. München/Newcastle: Lincom Europa
- 朝克 (2006) 『现代锡伯语口语研究』 北京：民族出版社
- [崔東權 et al.] 최동권 et al. (2012) 언두리[神]가 들려주는 끝나지 않는 이야기. 서울: 박문사
- Girfanova, A. H. (2002) *Udeghe*. München/Newcastle: Lincom Europa
- Gorelova, L. M. (2002) *Manchu Grammar*. Handbook of oriental studies, Section 8. Central Asia vol. 7. Leiden / Boston / Köln: Brill
- 胡增益 (1986) 『鄂伦春语简志』 北京：民族出版社
- 胡增益・朝克 (1986) 『鄂温克语简志』 北京：民族出版社

ス諸語とモンゴル語・中国語における目的を示す後置詞と目的介詞の用法及び発話動詞が意志表現に使われる点は、似ているようだが、さらなる検討が必要である。

- Ikegami, J. (1974) Versuch einer Klassifikation der tungusischen Sprache. *Sprache, Geschichte und Kultur der Altaischen Völker, Protokollband der XII. Tagung der Permanent international Altaische Conference 1969 in Berlin*, 271-272. Berlin Akademie Verlag
- 池上二良 (1997) 『ウイльта語辞典』札幌：北海道大学出版会
- 池上二良 (2001) 「ウイльта語動詞活用大要」『環北太平洋の言語』7: 157-166.
- 池上二良 (2002) 『ウイльта口頭文芸原文集』(ELPR publication series: A2-013, ツングース言語文化論集 16) 吹田：大阪学院大学情報学部
- 河内良弘・清瀬義三郎則府 (2022) 『満洲語文語入門』京都：京都大学学術出版会
- 風間伸次郎 (1996) 「ヘジェン語の系統的位罫について」『言語研究』109: 117-139.
- 風間伸次郎 (1999) 「ツングース諸語における指定格について」『語学研究所論集』4: 51-79.
- 風間伸次郎 (2002) 『ネギダル語テキストと文法概説』(ELPR publication series: A2-021, ツングース言語文化論集 19) 吹田：大阪学院大学情報学部
- 風間伸次郎 (2004) 「ツングース諸語におけるⅢ群の形成について」『環北太平洋の言語』11: 91-114.
- 風間伸次郎 (2008) 『ウルチャロ承文芸原文集 4』(ツングース言語文化論集 43) 府中：東京外国語大学
- 風間伸次郎 (2010a) 『ウルチャロ承文芸原文集 5』(ツングース言語文化論集 49) 府中：東京外国語大学アジア・アフリカ言語文化研究
- 風間伸次郎 (2010b) 『ナーナイの民話と伝説 12』(ツングース言語文化論集 48) 府中：東京外国語大学アジア・アフリカ言語文化研究所
- 風間伸次郎 (2010c) 『ウデへ語テキスト 6』(ツングース言語文化論集 47) 府中：東京外国語大学アジア・アフリカ言語文化研究所
- Kolesnikova, V. D. and O. A. Konstantinova (1968) Negidal'skij Jazyk. Jazyki narodov SSSR Vol.5. *Mongol'skie, Tunguso-Man'chzhurskie i Paleoaziatskie Jazyki*: 109-128. Skorik, P. R. (ed.) Leningrad: Nauka
- 李林静 (2006) 『ホジェン語の動詞構造』【博士論文】千葉大学大学院社会科学文化研究科
- 李樹蘭・仲謙編 (1986) 『錫伯語簡志』北京：民族出版社
- Nedjalkov, I. V. (1997) *Evenki*. London: Routledge
- Nikolaeva, I. and M. Tolskaya. (2001) *A Grammar of Udihe*. Berlin/NewYork: Mouton de Gruyter
- Novikova, K. A. (1968) Evenskij jazyk. Skorik, P. R. (ed.) Jazyki narodov SSSR Vol.5. *Mongol'skie, Tunguso-Man'chzhurskie i Paleoaziatskie Jazyki*: 88-108. Leningrad: Nauka
- Pakendorf, B. (2013) Incipient grammaticalization of a redundant purpose clause marker in Lamunxin Èven: Contact-induced change or independent innovation?. In Martine Robbeets, Hubert Cuyckens (eds.). *Shared Grammaticalization. With special focus on Transeurasian languages*: 259-283. Amsterdam: John Benjamins
- Pevnov, A. M. and M. M. Khasanova (2003) *Mify i Skazki Negidal'tsev* (ELPR publication series: A2-024). Suita: Faculty of Informatics, Osaka Gakuin University
- Sunik, O. P. (1985) *Ul'cskij Jazyk*. Leningrad: Nauka
- 津曲敏郎 (1981) 「満洲語の動詞語尾-me」『北方文化研究』14: 149-172.

- Tsumagari, T. (1997) Linguistic diversity and national borders of Tungusic. Shoji, H. and Janhunen, J. eds. *Northern minority languages: problems of survival* (Senri Ethnological Studies No.44): 175-186. Suita: National Museum of Ethnology
- 津曲敏郎 (2002) 『満洲語入門 20 講』 東京：大学書林
- Tsumagari, T. (2003) Dagur. J. Janhunen (ed). *The Mongolic Languages*: 129-153. London: Routledge
- Tsumagari, T. (2009) Grammatical outline of Uilta (Revised). *Journal of the Graduate School of Letters* 4: 1-21.
- 山越康裕 (2020) 「ツングース諸語の 4 分類はいつから構想されていたのか —AA 研所蔵田村資料から見える池上二良先生の分析の記録」東京外国語大学アジア・アフリカ言語文化研究所 日本北方言語学会第 3 回大会発表資料：池上二良先生ご生誕 100 年記念 (オンライン)
- 山田祥子 (2013) 『ウイльта語北方言の文法と言語接触に関する研究』【博士論文】札幌：北海道大学大学院文学研究科
- Zikmundová, V. (2013) *Spoken Sibe: Morphology of the Inflected Parts of Speech*. Prague: Karolinum Press
- Zhang, P. (2013) *The Kilen language of Manchuria: a grammar of a moribund Tungusic language* (PhD. dissertation). University of Hong Kong.

Distinctions of Purposive Forms and their Functions in Tungusic on the Basis of its Geographical Distribution

Sangyub BAEK
(Muroran Institute of Technology)

Keywords: Tungusic, geographical distribution, purposive elements, intentionality, future imperative

Taking four grammatical functions of purposive forms (i. motion purposive, ii. general purposive, iii. intentionality and iv. imperative) into account, this paper aims to concentrate on distinctions of purposive forms and their functions among Tungusic in accordance with its geographical distribution.

Converb in **-mi* is confirmed to function as a motion purposive marker in all Tungusic languages, but, in Manchu and Sibe, both motion purposive and general purposive can be marked by the converbal ending *-m(ə)*.

Tungusic in Russia commonly possesses specific purposive converbs, whereas such purposive converbal endings do not exist in Solon, Manchu, Sibe on the Chinese side. In addition, it deserves to mention that there is a difference in the forms of purposive converbs between North Tungusic (Evenki, Even, Negidal) and East Tungusic (Nanay, Orochi, Udihe, Uilta). Specifically, North Tungusic (Evenki, Even, Negidal) commonly retains purposive converbal ending *-dAA-PERS*. It not only combines with DO verbs to denote intentionality but also functions as future imperative. In East Tungusic languages (Nanay, Orochi, Udihe, Uilta), different type of purposive converbs not corresponding with *-dAA-PERS* in the 1st group of Tungusic on the Russian side but related to designative case are existent. They also combine with DO verbs to express intentionality in Nanay, Udihe and Uilta but do not serve as future imperative forms in the entire East Tungusic languages. Lastly, South Tungusic (Solon, Manchu, Sibe), spoken on Chinese territories, do not have purposive converbs verified in North and East Tungusic languages and, instead, purposive postposition is used to express motion and non-motion purposive. It does not serve as an element of intentionality and imperative. In terms of intentionality, they have in common that a speech verb is used in the expression.

In conclusion, this study raises a possibility that areal factor is attributed to variations of purposive elements and their functions in the Tungusic languages.

(べっく・さんやつぶ iyairaykere@hotmail.co.jp)